

早期胃癌研究会 2014 年最優秀症例賞は 南風病院消化器内科が受賞



▲ 受賞の挨拶を述べる松田氏。

間の優秀症例を集めた中から最優秀症例を決めるという過程をとっている。今回は 11 例の中から運営幹事会にて検討して 3 例に絞り、最終投票を行った結果、2014 年第 53 回「胃と腸」大会で提示された本症例が最優秀症例賞に選ばれた」と選考過程を述べた。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長(当時)の斉藤裕輔氏(市立旭川病院消化器病センター)から、賞状と賞金が贈呈された。斉藤氏は「誠におめでとうございます。非常に珍しい症例を極めて卓越した画像で表現していただき、感動しました」と評価した。

松田氏は「本日は早期胃癌研究会という歴史ある研究会におきまして年間最優秀賞をいただき、誠にありがとうございます。これまでご指導いただきました先生方にお礼申し上げます」と受賞の挨拶を述べた。

引き続き松田氏より、受賞症例の解説が行われ、この貴重な症例の発表が終わると会場内から盛大な拍手が送られた。

早期胃癌研究会では、毎月原則として 5 例の症例が提示され、臨床所見、病理所見共に毎回詳細な症例検討が行われている。2003 年より、年間に提示された症例の中から最も優れた症例に最優秀症例賞が贈られることになった。

12 回目の表彰となる早期胃癌研究会 2014 年最優秀症例賞は、南風病院消化器内科・松田彰郎氏の発表した「セリアック病の 1 例」に贈られた。2015 年 3 月 18 日(水)、笹川記念会館で行われた早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

賞状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事会最優秀症例賞選考担当幹事の赤松泰次氏(長野県立須坂病院内視鏡センター)が「この研究会で提示された症例は、運営委員会で検討され、毎月の優秀症例が選ばれる。こうして年



▲ 斉藤裕輔氏より賞状と賞金の授与が行われた。